

「宮きよめの祭りにて」

ヨハ 10 : 22~39

1. はじめに

(1) 文脈の確認

① これまでは、仮庵の祭りの時期に起こったことを扱ってきた。

* 十字架の死の約半年前

② 今回は、宮きよめの祭りの時期に起こったことを扱う。

* 仮庵の祭りから約2ヶ月後、十字架の死の約4ヶ月前

③ 前回のイエスの教えの要約

* 指導者たちがメシアを拒否したので、民族的滅びがやって来る。

* しかし、個人的にその滅びを免れる道が用意されている。

* イエスをメシアとして信じるのが、その道である。

④ 今回の内容

* エルサレムの宗教的指導者たちがイエスに敵対した。

* イエスは彼らに答えた。

* その結果、両者の溝はさらに深くなった。

* 読者の視点：メシアはどういう経緯で十字架にかかって行ったのか。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 111 宮きよめの祭りで、ユダヤ人たちはイエスに石を投げようとした。

2. アウトライン

(1) はじめに (22~23 節)

(2) 対立 (1) (24~30 節)

(3) 対立 (2) (31~32 節)

(4) 対立 (3) (33~38 節)

(5) 結論 (39 節)

3. 結論：2つの重要な教理

(1) 神の選び

(2) 永遠の保証

イエスと宗教的指導者たちの対立を通して、イエスの本質について学ぶ。

はじめに (22～23 節)

1. 時期 (22 節)

Joh 10:22 そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。

(1) モーセの律法には、7つの祭りが出て来る。

①過越の祭り、七週の祭り (ペンテコステ)、仮庵の祭りは、巡礼祭である。

(2) モーセの律法に出てこない祭りが2つある。

①プリムの祭り

*起源は、エステル記に記された解放劇にある。

*ハマンの策略から解放されたことを記念する祭り。

*アダルの月の14日と15日 (太陽暦の2月～3月)

*新約聖書には出てこない (エルサレムではなく、各地で祝われた)。

②宮きよめの祭り (神殿奉献記念祭) (the feast of the dedication)

*ヘブル語で「ハヌカ」(奉献) という。

*前165年、キスレウの月 (第9の月) の25日 (太陽暦の11月～12月)

*セレウコス朝 (アンティオコス・エピファネス) からの解放

・マカベア戦争により、ユダヤ人たちは独立を勝ち取った。

*最初の祭りは、2ヶ月遅れの仮庵の祭りであった。

*8日間、神殿の油が切れなかった。光の祭り。

*パリサイ人たちは、この8日間の祭りの継続を決め、今日に至る。

*欧米では、クリスマスと宮きよめの祭りが、時期的に重なる。

2. 状況 (23 節)

Joh 10:23 時は冬であった。イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。

(1) 時期的には、十字架にかかる約4ヶ月前である。

①時は冬であった。ヨハネは、霊的な冬を暗示していると思われる。

②光である方が、光の祭りに姿を現された。

③イエスは、ご自身の命を父なる神に「奉献」しようとしていた。

(2) ソロモンの廊を歩いていた。

①神殿の東側に位置する南北に延びた廊 (屋根付の空間) である。

②ラビたちが講話を語る場所であった。

③イエスは、非常に目立った場所におられた。

I. 対立 (1) (24～30 節)

1. ユダヤ人の指導者たちの糾弾 (24 節)

Joh 10:24 それでユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」

(1) ユダヤ人たちとは、エルサレムの指導者たちである。

①彼らは、イエスを包囲した。彼らの強い決意が見える。

(2) 訳文の比較

「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください」(新改訳)

「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい」(新共同訳)

「いつまでわたしたちを不安のままにしておくのか。あなたがキリストであるなら、そうとはっきり言っていただきたい」(口語訳)

「何時まで我らの心を惑しむるか、汝キリストならば明白(あらは)に告げよ」

①彼らの理解では、イエスは自分がキリストだとは明言していない。

②彼らは、言葉尻を捕らえてイエスを逮捕しようとしている。

2. イエスの回答 (25～30 節)

Joh 10:25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行うわざが、わたしについて証言しています。

Joh 10:26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。

Joh 10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

Joh 10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

Joh 10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

Joh 10:30 わたしと父とは一つです。」

(1) イエスのメシア性は、明確に証明されている。

①教えによって

②奇跡によって (父の御名によって行うわざ)

(2) 6つの重要な教えが登場する。

- ①信じないのは、彼らがイエスの羊に属していないから(26節)。
- ②信じた人たちは、イエスの声を聞き分ける(27節)。
 - *イエスと信者の密接な関係を示している。
- ③イエスは彼らのことを知っている(27節)。
 - *福音のメッセージを理解し、父なる神の御心に従順に生きる。
- ④彼らは、イエスについて行く(27節)。
 - *福音のメッセージを理解し、父なる神の御心に従順に生きる。
- ⑤彼らには、永遠の保証が与えられている(28節)。
- ⑥彼らをイエスに与えたのは、天の父である(29節)。

(3) イエスと父とは一つである(30節)。

- ①イエスと父が同一人物だということではない。
- ②ユダヤ的には、これはイエスの神性宣言である。
- ③そして、ユダヤ人の指導者たちは、その部分は十分理解した。

II. 対立(2)(31~32節)

1. ユダヤ人の指導者たちの反応(31節)

Joh 10:31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。

(1) ユダヤ人の指導者たちは、イエスのことばの意味をよく理解した。

- ①イエスは、最も明白な方法で神性宣言をしている。

(2) 彼らは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。

- ①理由は、冒とく罪である。
- ②レビ24:16
- ③ヨハ8:59で同様の記事が出て来る。

2. イエスの回答(32節)

Joh 10:32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」

(1) イエスの冷静な態度

- ①イエスは、エルサレムにおいて数々の癒しを行われた。
- ②それらの癒しは、父から出て良いわざである。
- ③そのうちのどのわざが、ユダヤ人の指導者たちを怒らせたのか。

III. 対立(3)(33~38節)

1. ユダヤ人の指導者たちの反応(33節)

Joh 10:33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒瀆のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」

- (1) イエスが行った良いわざは、問題ではない。
 - ①安息日の癒しに対しては、怒っていたはずなのに、それに触れていない。
- (2) 人間でありながら、自分を神とするのが問題である。
 - ①イエスが単なる人間だという前提は変えない。
 - ②彼らは、イエスの意図をさらに明確に言葉にしている。
 - ③これが冒とく罪になるのは、イエスが単なる人間である場合のみである。

2. イエスの回答(34~38節)

- (1) ラビ的議論を理解する必要がある。
 - ①旧約聖書から引用し、それを適用しながら論を展開する。
 - ②「あなたがたの律法に、〇〇と書いてはいないか」
 - *ユダヤ人たちは、律法を与えられていることを誇りとした。
 - *ここでは、「律法」は旧約聖書全体を指している。

- (2) イエスが引用したのは、詩82:6である(34節)。

Joh 10:34 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたの律法に、『わたしは言った、おまえたちは神々である』と書いてはいないか。」

- ①詩82篇では、神は裁き主である。
- ②神は、正しい裁きを地上に実現するために、人間の裁き人を立てる。
- ③彼らは、神の代理人として裁きを行う。
- ④そういう意味で、彼らは「神々」である(ヘブル語でエロヒム)。
- ⑤人間の裁き人に神性が宿っているということではない。

(3) 引用聖句の解釈と適用(35~36節)

Joh 10:35 もし、神のことばを受けた人々を、神々と呼んだとすれば、聖書は廃棄されるものではないから、

Joh 10:36 『わたしは神の子である』とわたしが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が、聖であることを示して世に遣わした者について、『神を冒瀆している』と言うのですか。

- ①「聖書は破棄されるものではない」とは、イエスの聖書観である。

- ②ここにも、カル・バホメル(大から小へ)の議論がある。
- ③神が立てた人間の裁き人が、「エロヒム」と呼ばれている。
- ④それなら、父から遣わされた者が自分のことを「神の子」と呼ぶのが、なぜ冒とく罪なのか。
- ⑤「聖であることを示し」とは、父の業を行うために選び分かれたという意味。
- ⑥イエスは、父から直接世に遣わされた。

(4) わざがイエスのメシア性を証明している(37~38節)。

Joh 10:37 もしわたしが、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じないでいなさい。

Joh 10:38 しかし、もし行っているなら、たとえわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」

- ①イエスが行っているわざは、「父のみわざ」である。
- ②イエスのことばが信じられなくても、イエスのわざを信用することはできる。
- ③「父がわたしにおられ、わたしが父に在る」
*これもまた、イエスの神性宣言である。

④ニコデモの言葉

「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません」(ヨハ3:2)

V. 結論(39節)

Joh 10:39 そこで、彼らはまたイエスを捕らえようとした。しかし、イエスは彼らの手からのがれられた。

(1) ユダヤ人の指導者たちはまた、イエスを捕らえようとした。

①ヨハ7:30、32、44、8:20 参照

(2) イエスは、彼らの手から逃れた。

- ①逃れた方法は記されていない。
- ②逃れた理由が重要である。また、時が来ていない。
- ③間もなく、イエスが自らを彼らの手に委ねる時が来る。

結論

1. 神の選び

Joh 10:26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。

Joh 10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

(1) 分かっていること(人間の責務)

- ①ユダヤ人の指導者たちは、イエスの語っていることを信じなかった。
- ②彼らは、イエスのことばは明瞭ではないと思っていた。
- ③彼らは、自分たちが理解できる枠の中にイエスが入ってくることを求めた。

(例話)「〇〇が分かったら信じる」という人の問題点

- ④自分から聖書の論理に近づく必要がある。

⑤発想の転換

「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒瀆のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです」(33節)

*イエスは神でありながら、人間になられた。

(2) 分からないこと(神の選び)

- ①神の羊に属さない者は、イエスを信じない。
- ②イエスの羊は、イエスの声を聞き分ける。

(3) 上記(1)と(2)は、ともに信じる必要がある。

2. 永遠の保証

Joh 10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

Joh 10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

(1) イエスの約束は信じられる。

- ①信じる者には、永遠のいのちが与えられている。
- ②信じる者は、決して滅びることがない。
- ③信じる者は、御子と御父によって守られている。

(2) 永遠の保証の教理は、放縦な生き方に道を開くものではない。

- ①私たちは、救いを失わないためにクリスチャン生活をするのではない。
- ②私たちは、クリスチャンになったからクリスチャン生活をするのである。
- ③クリスチャン生活とは、神の愛に対する愛の応答である。

(3) 新約聖書に書かれて警告のことばは、永遠の保証を前提に読む必要がある。